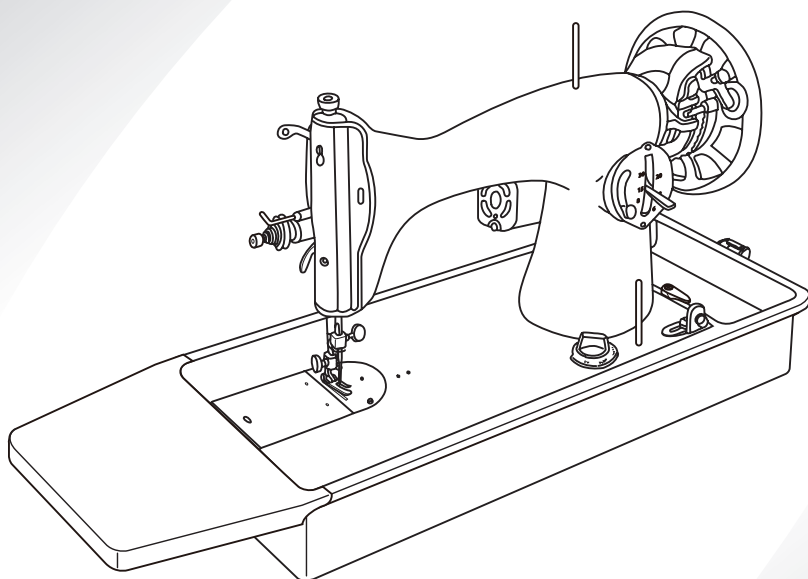


# 取扱説明書

型式: HA シリーズ

Sewing Machine



お買い上げいただきありがとうございます。



**警告**

電気製品は安全のための注意事項を守らなければ、火災や人身事故になる場合がございます。「取扱説明書」には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いを示しています。「取扱説明書」をよくお読みのうえ、製品を安全にご使用ください。

また、お読みになった後はいつでも見ることができるよう、必ず保管してください。

## お使いになる前にお読みください

安全上のご注意	2
取り扱いのご注意	5
各部の名まえ	6
ミシンカバー	7
付属品	8

## 操作のしかた

押え	9
電源を入れる前に	10
電源を入れる	11
ボビンの取り出しかた	12

## 縫う前の準備

下糸の巻きかた	13
上糸のかけかた	18
下糸の引き上げかた	21
針、糸、生地の関係	21
送りの調節	22
送り歯ドロップ装置	23
押え圧力調節ネジ	23

## 縫ってみる

直線縫い	24
糸調子の合わせかた	26
返し縫い	27
厚布・段差を縫う	27
縫い方向を変える	28

## お手入れ

針の取りかえかた	28
正しい針の選びかた	29
お手入れ	30

## その他

困ったときは	34
仕様	35
修理サービス要領	35
サービス工場・ご相談先	36
保証書	巻末

# 安全上のご注意

ご使用前に「安全上のご注意」を必ず読み、正しく安全にご使用ください。

この取扱説明書および商品には、安全にお使いいただくためにいろいろな表示をしています。表示を無視して誤った取り扱いにより生じる内容を、次のように区分しています。

以下の内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

- このミシンは日本国内向け家庭用です。For use in JAPAN only.  
国外での使用および職業用としてご使用になった場合の保証はできません。
- 仕様および外観は品質改善のため、予告なく変更することがあることをご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製をすることは禁じられておりますのでご了承ください。



## 警告








この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う恐れがある内容を表します。



## 注意

この表示を無視して誤った使い方をすると、人がケガをしたり財産に損害が生じる恐れがある内容を表します。

この説明書で使用している絵文字の意味は次の通りです。

危険を促す記号	行為を「禁止」する記号	行為を「指示」する記号
 火災の原因になります	 禁止	 必ずすること
 感電の危険性があります	 分解禁止	 電源プラグを抜く
 ケガの危険性があります		



## 警告



●死亡、火災、感電の恐れがあります。



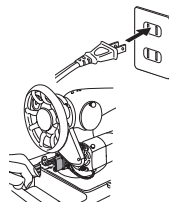
- 一般家庭用電源 AC100V の電源以外では絶対に使用しないでください。  
AC100V 50/60Hz

同梱の電源コードは、このミシン以外には使用しないでください。



原因と  
なります。  
火災、感電の  
原因と  
なります。

- 電源プラグをコンセントにしっかり差し込んでください。
- ミシン本体側のレセプターとフットコントローラージャックは確実に奥まで差し込んでください。  
発火の原因になります。



- コードを傷つけたり、折り曲げ、結び、ねじれ、加工はしないでください。
- コードは巻き付けしないでください。  
コードの断線や接触不良による感電の原因になります。



- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。  
感電の原因になります。



- 傷付いたり、溶けて線がむき出しになったコードを使わないでください。  
コードが傷付いた場合は販売店・サービスセンターにて純正部品をお買い求めください。



  	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コードに机や椅子の脚など、重いものを載せないでください。</li> <li>●分岐コンセントを使用したタコ足配線はしないでください。</li> </ul>	 
 火災、感電の原因となります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ミシンの中に水や異物が入ったときは、『電源プラグ』をコンセントから抜いてください。</li> <li>●発煙や異臭・異音などの異常が発生したときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。</li> </ul>	 
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●落としたり正常に作動しないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ミシンを使用しないときやミシンから離れたり使用中断するときは電源プラグを抜いてください。 絶縁劣化、漏電などによる火災の原因になる恐れがあります。</li> <li>●ミシン本体の油穴やモーター通気口から異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。</li> </ul>	
 と死亡の原因となります。	<ul style="list-style-type: none"> <li>●特にお子様は袋などの梱包材やミシンの付属品・ミシンから外した部品は絶対に口に入れないでください。 窒息など身体に影響を及ぼす恐れがあります。</li> </ul>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コードを身体に巻きつけないでください。 窒息やうっ血の恐れがあります。</li> <li>●袋などの梱包材をかぶらないでください。 窒息する恐れがあります。</li> </ul>	 



# 注意



●ケガや財産に損害が生じる恐れがあります。



- 不安定な場所に置かないでください。
- 動作中にはずみ車・天びん・下糸巻き軸・針などの鋭利な部品に手を触れないでください。手や指が挟まる、針が刺さるなどケガの原因になります。
- 曲がった針は使わないでください。針が折れ、ケガの原因になります。
- すべり板を開けたままミシンを操作しないでください。
- 縫製中に生地を無理に引っ張ったり押したりしないでください。手や指が挟まる、針が刺さるなどケガの原因になります。



- 火のそばで使用しないでください。(火の消えていないタバコ、ロウソクなど) 火災の原因になります。
- モーターの通気口をふさがないでください。また、通気口に糸くずやほこりが溜まらないように注意してください。火災の原因になります。
- スプレーなどを使った部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるヤケド・火災の原因になります。
- 使用中や使用後はモーターに手を触れないでください。ヤケドの原因になります。



- 幼児の手が届かない場所に保管してください。針や押えなどの突起でケガの原因になる恐れがあります。



- 糸をセットするときやミシンの手入れを行うときは電源プラグをコンセントから抜いてください。作業途中にミシンが動く恐れがありケガの原因となります。
- ミシンの操作中はミシンから目を離さないでください。



- 交換した針を放置しないでください。
- お子様が使用するときや、お子様の近くで使用するときは特に安全に注意し、お子様から目を離さないでください。
- 針、押え、アタッチメントを交換するときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。作業途中にミシンが動く恐れがあり、ケガの原因となります。



- 屋外や直射日光のあたる場所、高温多湿な環境、寒い場所での使用は避けてください。部品の劣化や変形、また正常に作動しないことがあります。
- ミシン本体は 13kg あります。ミシン本体を持ち運びする際は、急激・不用意な動作をしないでください。ケガの原因になります。
- コードを引き抜くときは電源プラグを持って抜き差ししてください。コードの断線や接触不良による感電の原因になります。

# 取り扱いのご注意

末長くお使いいただくため、次のことを守ってください。

縫製以外や業務用、職業用の目的には、ご使用にならないでください。極度の部品摩耗や破損につながります。



## 注意



●ケガやミシンの故障が発生する恐れがあります。

### ●使用後は、上糸をはずす

収納の際にかけていた糸がはずれている場合があります。

### ●曲がった針を使わない

### ●糸絡みのとき、糸・生地を引っばらない

そのまま縫い進めると故障の原因になります。

曲がった針を使うと、次のようなケガや部品の損傷につながります。

針穴に刺さらず、折れた針が飛び、ケガをする恐れがあります。

押えや針板に傷を付けてしまい、糸調子が合わなくなります。

### ●このミシンで縫えないもの

次のものはこのミシンでは縫えません。

木、プラスチック、金属などの板・ぬれた生地、粗い網（漁網など）・はずみ車を手で回しても、針が刺さりにくい生地、厚さ6mm以上の生地は針やモーターなどに過度の負担をかけ、故障の原因になるだけでなく、針折れなどの原因にもなります。

### ●保管時の結露（つゆつき）について

寒いところから、暖かい室内に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋では、本体の表面や内部に結露（つゆつき）が起こることがあります。

結露がなくなるまで、電源プラグをコンセント（家庭用電源）に接続しないでください。そのままお使いになると感電や誤動作・故障の原因になります。

### ●直射日光・熱気をさける

直射日光が当たる場所や熱器具の近くには置かないでください。

プラスチックのカバー部分や内部部品に変色・変形や部品劣化などの悪い影響を与えますのでご注意ください。

### ●ミシン表面のお手入れ

プラスチック部分の汚れがひどいときは、中性洗剤をぬるま湯に薄め、布に浸してかたく絞り、乾いた布で仕上げてください。ベンジン・シンナー・ワックスなどで拭かないでください。

### ●説明書で指定された以外の分解・改造はしない

ネジ類の締め忘れやゆるみにより、針折れや部品の破損につながります。

### ●長期間ご使用にならないとき

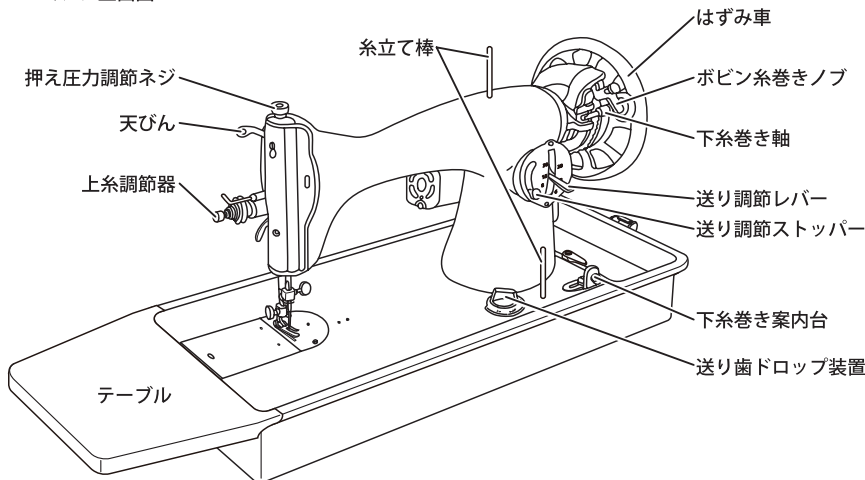
長期間ご使用にならないと、油の乾燥・固着などで機能に支障をきたす場合があります。時々、ミシンを動かしてください。油の固着を防ぐことができます。

### ●ミシンの上に物を載せない / ミシンの上に乗らない

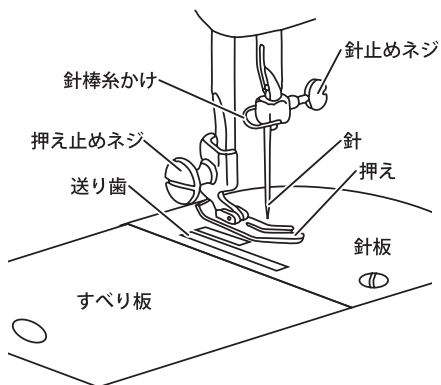
ミシンに負担がかかり故障の原因になるだけでなく、ミシンが倒れたりしてケガの原因にもつながります。

# 各部の名まえ

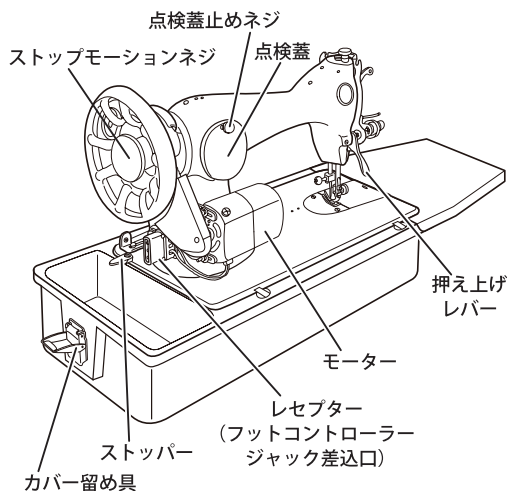
## ● 本体 < ミシン正面図 >



## ● 針周辺



## ● その他 < ミシン背面図 >



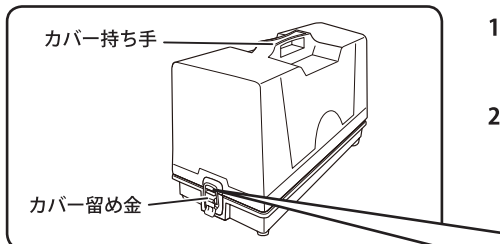
# ミシンカバー

## 注意

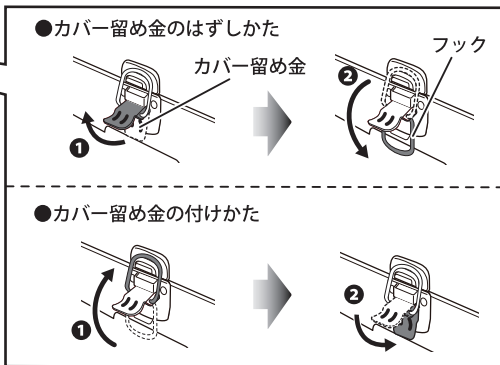
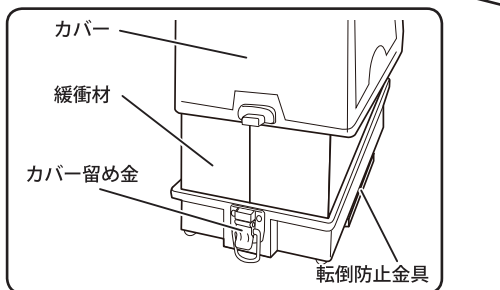


- ミシン本体は比較的重量があり(13kg)持ち運びされる際はカバーをかぶせ、ロックが完全であるか十分に確認して持ち運びください。他の部分を持つとこわれたり、滑って落としケガの原因になります。
- ミシン本体は13kgあります。ミシン本体を持ち運びするときは、急激・不用意な動作をしないでください。ケガをする恐れがあります。
- カバー留め金が確実にロックできない場合は、カバー持ち手を持ち上げないでください。ケガをする恐れがあります。

※修理のときなどの輸送に必要です。外箱と緩衝材(発泡スチロール)は保存しておいてください。



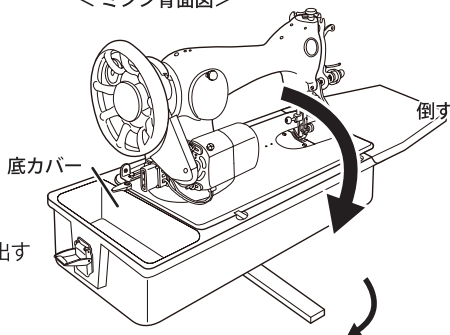
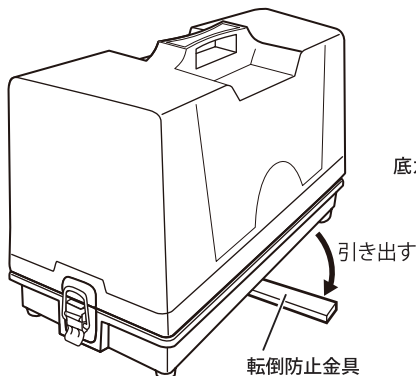
1. ミシンの重量は13kgあります。箱から出すときには慎重に『カバー持ち手』を両手で持ち、取り出してください。
2. 『カバー』両端の『カバー留め金』の『フック』を外し、『カバー』を引き上げます。



## ●緩衝材の取り出しかた

- ミシンの底にある緩衝材を取り出すときには、背面側下の『転倒防止金具』を引き出し、底カバーを押えてミシン本体を倒してください。

<ミシン背面図>



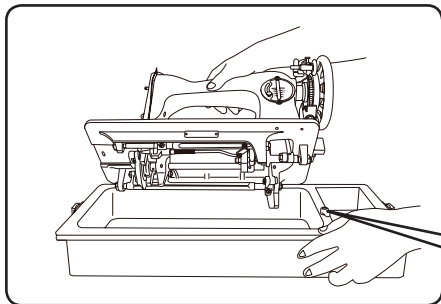




## 注意

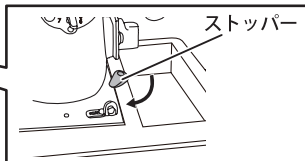


- ミシン本体の移動や操作時に、ミシンとカバーのすきまに指を挟まないように注意してください。ケガをする恐れがあります。



※ミシン底部に入っている緩衝材は取り出してご使用ください。

3. ミシン前後の『緩衝材』を取りはずします。  
2つの緩衝材の間に『フットコントローラー』を収納しています。取り忘れに注意してください。
4. カバーの台をしっかりと押さえ、ミシンを引き上げ、向こう側に倒します。ミシンの下の緩衝材を取り出し、ミシンを元の状態に戻します。



5. ミシンの『ストッパー』をミシン側に向けておきます。(ミシンを持ち上げたときに底カバーが開かないようにするため)

## 付属品

必ず専用の付属品をご使用ください。



## 警告



- 付属品でお子様がかげをする恐れがあります。保管には充分ご注意ください。



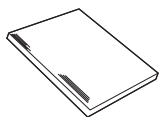
- 付属品などの小さな部品は口に入れないでください。窒息をする恐れがあります。誤って油を飲んだときは、『鉱物油』であることを伝えて医師の治療をお受けください。



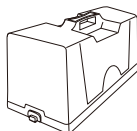
- コード部分を身体に巻きつけないでください。窒息やうっ血の恐れがあります。



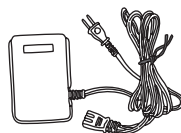
- 袋などの梱包材を頭からかぶらないでください。窒息をする恐れがあります。



取扱説明書 (本書)



カバー

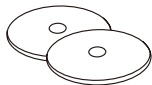


フットコントローラー

### 付属品箱



ドライバー (大・小各1本)



フェルト2枚



油さし



糸立棒2本



家庭用ミシン針 HA × 1  
3本 (#14)



ボビン 3個  
(高さ: 11.5mm × 直径: 20.5mm)

# 押え



**注意**



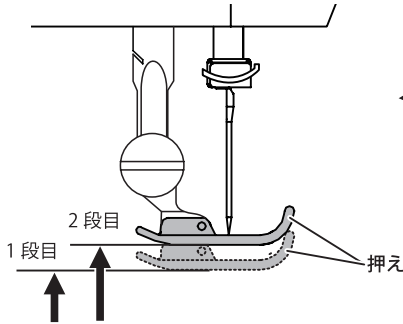
- 電源プラグをコンセントから抜く。  
突然動くとケガをする恐れがあります。



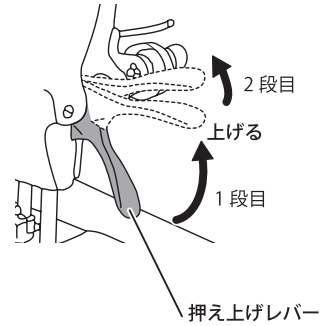
- 針先や天びんに注意する。  
ケガをする恐れがあります。

## ●押えの上げ・下げ

<ミシン左横図>



<ミシン背面図>



- ※『押え上げレバー』を上げると、『押え』が上がります。  
更に『押え上げレバー』を上げると『押え』が上がる2段階式になっています。
- ※2段階目では固定できません。
- ※生地の高さは1段階目の高さを超えないようにしてください。



**注意**

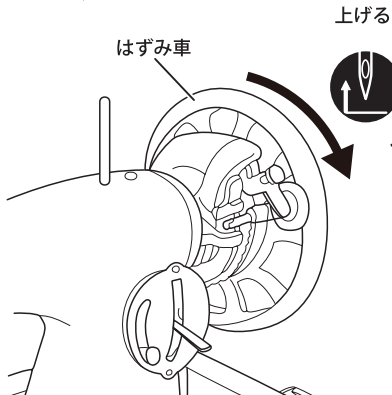


- 電源プラグをコンセントから抜く。  
突然動くとケガをする恐れがあります。



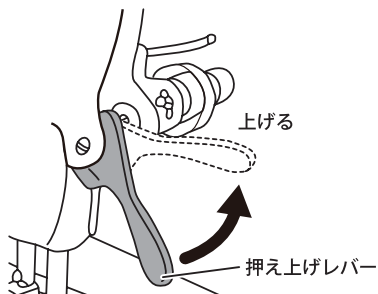
- 針先や天びんに注意する。  
ケガをする恐れがあります。

## ●押えのはずしかた

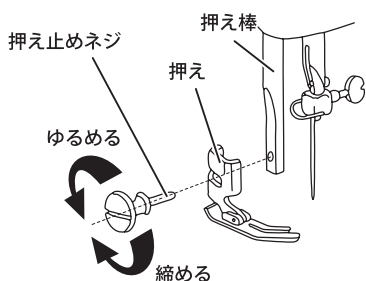


- 1.『はずみ車』を矢印方向に回し、針を一番上します。

<ミシン背面図>



2. 『押え上げレバー』を上げます。



3. 『押え』を『押え棒』に取り付ける。

『押え止めネジ』の取り付け、取りはずしには付属の『ドライバー』をご使用ください。

はずす：『押え止めネジ』をゆるめ、はずします。

つける：『押え』と『押え棒』の穴の位置を合わせます。  
『押え止めネジ』を締めます。

## 電源を入れる前に

縫い損じを防ぐため、次のことを実施してください。



**注意**

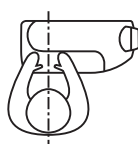


- 安定した場所に設置する。
  - 作業スペースを十分に確保する。
  - 周囲に物を置かない。
- はずみ車や針など動く部分が露出しています。ケガの原因になります。

### ●ミシンをより快適につかうために



針先が無理なく見える位置にミシンを設置してください。



針の中心と身体の中心が一致するようにミシンを設置してください。

『はずみ車』を手で回してみる。

ミシンが正常に動くかを確認します。

針が曲がっていると、ポビンケースや針板に針が当り、折れたり傷を付ける場合があります。

# 電源を入れる

## 警告



●コードは電源プラグ部分を持って抜き差しする。  
コード部分を引っ張ると、コード部分が破損し、死亡・火災・感電・機器故障の原因になります。



●コードを身体に巻きつけないでください。  
窒息やうっ血の恐れがあります。



●死亡・火災・感電・ケガの恐れがあります。



●作業が終わったら、必ず電源プラグをコンセントから抜く。



●フットコントローラーに物を載せない。

## 注意



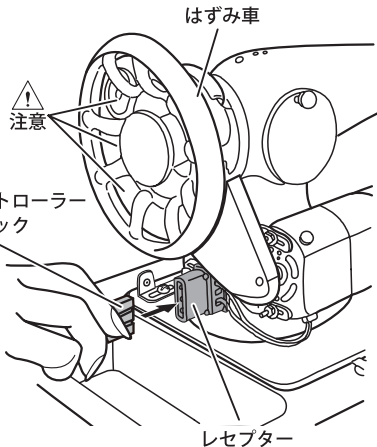
●針、天びん、下糸巻き軸などに注意する。  
突然動くときケガをする恐れがあります。

●はずみ車や針周辺に手や物を置かない。  
突然動くときケガをする恐れがあります。

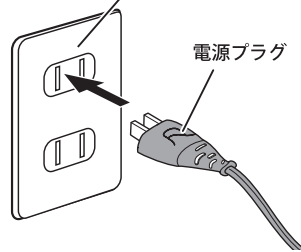
●はずみ車の内側の穴には、指や物などを入れたまま、動かさない。  
ケガをする恐れがあります。

<ミシン右側面図>

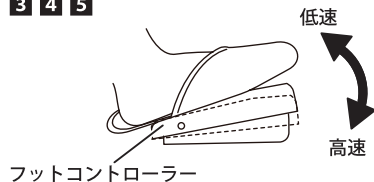
1 『フットコントローラージャック』



2 コンセント (家庭用電源 /100V)



3 4 5



1. 『フットコントローラージャック』はミシン本体の『レセプター』に向きを合わせて接続します。
2. コンセント (家庭用電源 /100V) に『電源プラグ』を差し込みます。
3. 『フットコントローラー』を少しずつ踏み込むと、ミシンが動き始めます。
4. 『フットコントローラー』を踏み込むほどミシンのスピードが速くなります。
5. 『フットコントローラー』から足をはなすとミシンは停止します。  
※使用後は、必ず電源プラグをコンセントから、抜いてください。  
※専用フットコントローラー『型式：4C-315A 定格：AC100V、1.5A』

# ボビンの取り出し方



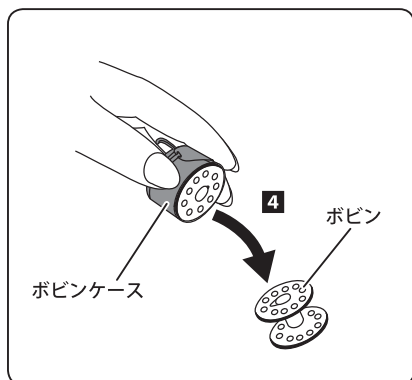
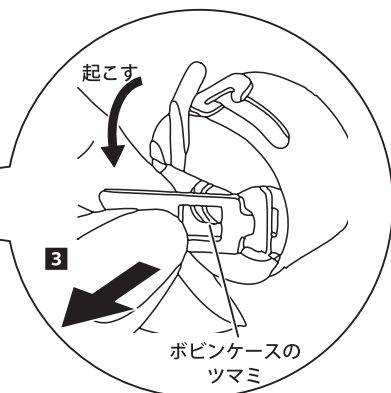
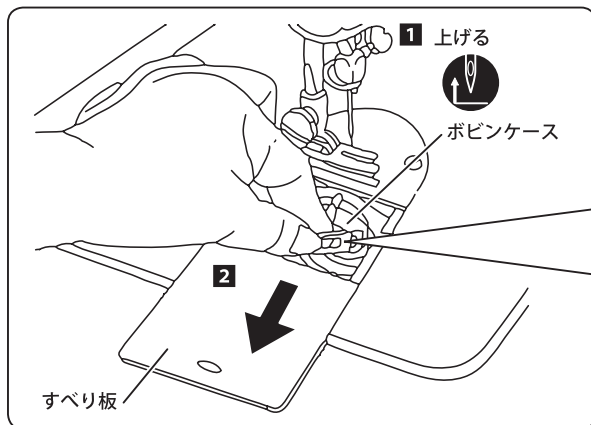
**注意**



●電源プラグをコンセントから抜く。  
突然動くとケガをする恐れがあります。



●針先や天びんに注意する。  
ケガをする恐れがあります。



1. 『はずみ車』を回し、針を一番上にします。
2. 『すべり板』を開きます。
3. 『ボビンケースのツマミ』を起こし、つまんだまま取り出します。
4. 『ボビンケースのツマミ』を元に戻し、『ボビンケース』を持ち、『ボビン』を取り出します。

# 下糸の巻きかた

## 注意

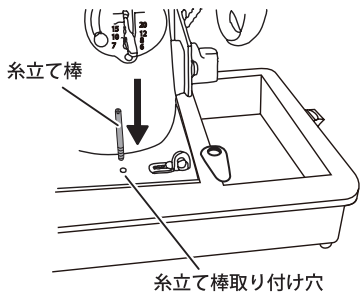


●電源プラグをコンセントから抜く。  
突然動くとかげをする恐れがあります。



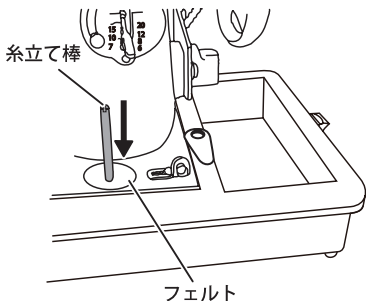
●針先や天びんに注意する。  
ケガをする恐れがあります。

### <ミシン前面右下図>



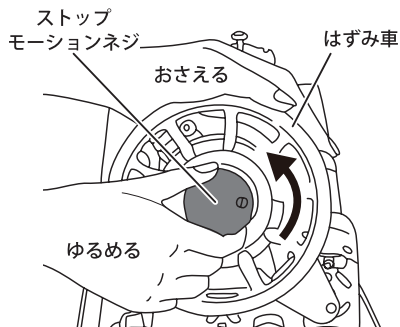
1. 付属の『ドライバー』を使用し『糸立て棒取り付け穴』に『糸立て棒』を奥までねじ込みます。

### <ミシン前面右下図>



2. 『糸立て棒』に『フェルト』を入れます。

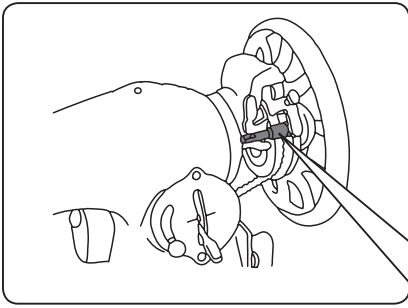
### <ミシン右側面図>



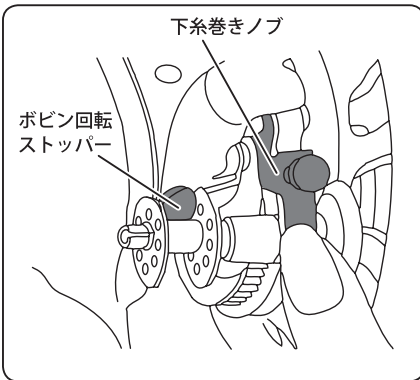
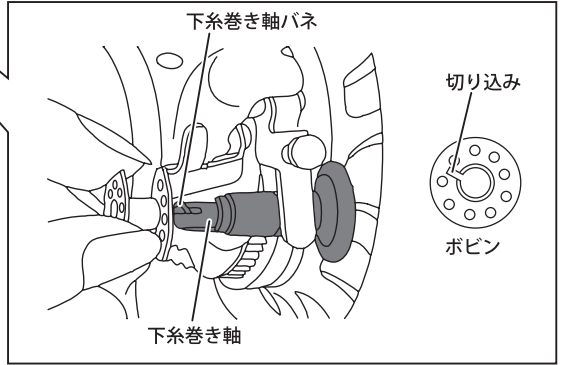
3. 片手でしっかり『はずみ車』を押え、『はずみ車』中央の『ストップモーションネジ』を矢印方向(反時計回りに30~60°回転)に回してゆるめます。

※『ストップモーションネジ』をゆるめると『はずみ車』を回しても針は動かなくなります。

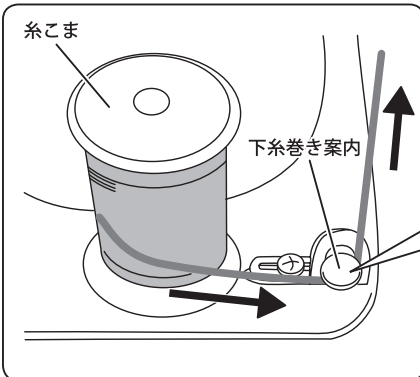
※『ストップモーションネジ』のゆるめかたが不十分だと針が動くことがありますので注意してください。



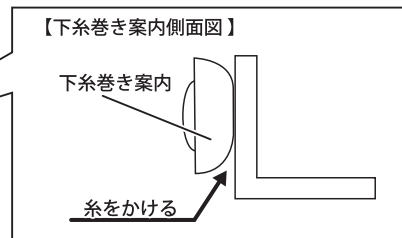
4. 『ボビンの切り込み』と『下糸巻き軸バネ』を合わせます。
5. 『ボビン』を『下糸巻き軸』に奥までしっかりさします。

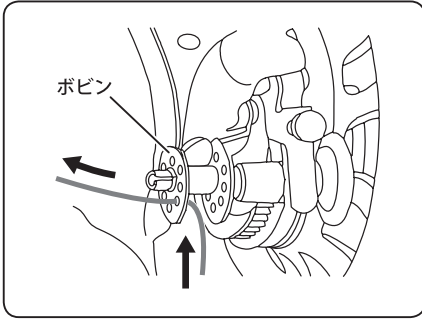


6. 『下糸巻きノブ』を押し付け、『ボビン回転ストッパー』をセットします。

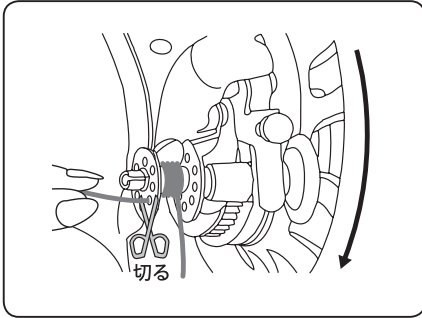


7. 『糸立て棒』に『糸こま』をさし、『下糸巻き案内』に糸をかけます。

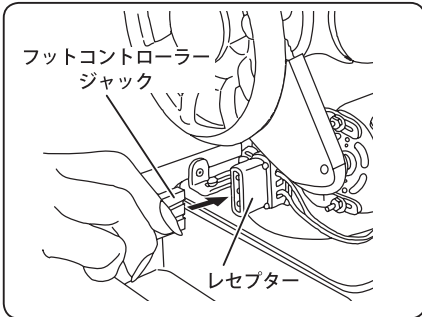




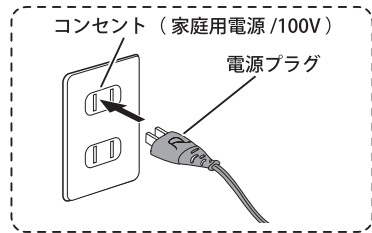
8. 『ボビン』の穴に内側から糸を通します。



9. 糸の端を持ち、『はずみ車』を手前に回して『ボビン』に7～8回ほど糸を巻き、糸を切ります。

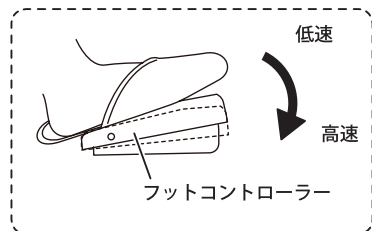
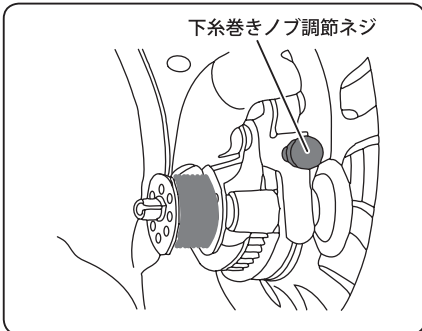


10. 『フットコントローラー ジャック』をミシンの『リセプター』に接続し、『電源プラグ』をコンセントにさし込みます。

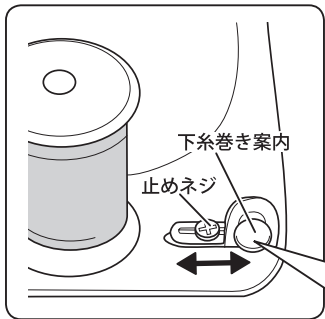


11. 最初は『フットコントローラー』を軽く踏み込み、ゆっくり糸を巻きます。





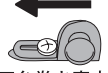
※ 『ボビン』が回らない場合は、『下糸巻きノブ調節ネジ』を回して調節します。



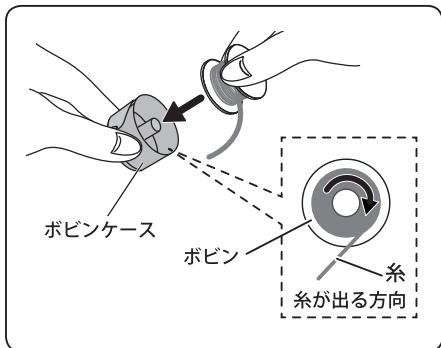




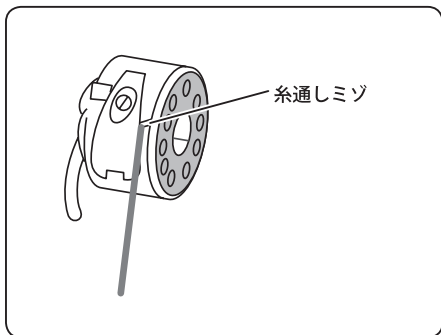
※ 『ボビン』の糸巻きが片寄る場合は、止めネジをゆるめ、『下糸巻き案内』の位置を調節してください。

<p>○ 正しい巻きかた</p> 	<p>『ボビン』の糸が均一に巻けない際は、『下糸巻き案内』を左右に調整します。</p>
<p>× 悪い巻きかた</p> 	<p>→</p> <p>『ボビン』が左記ようになる際は『止めネジ』をゆるめて『下糸巻き案内』を右に調整します。</p>  <p>下糸巻き案内</p>
<p>× 悪い巻きかた</p> 	<p>←</p> <p>『ボビン』が左記ようになる際は『止めネジ』をゆるめて『下糸巻き案内』を左に調整します。</p>  <p>下糸巻き案内</p>

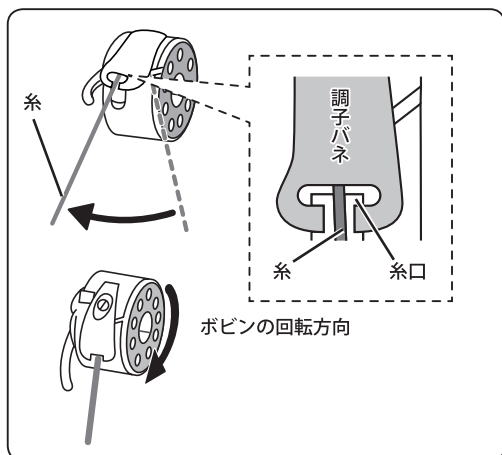
## ●ボビンケースにボビンをセットする



12. 『ボビン』から糸を 10cm ほど引き出し、糸の端が右側にくるように『ボビンケース』の中に入れます。

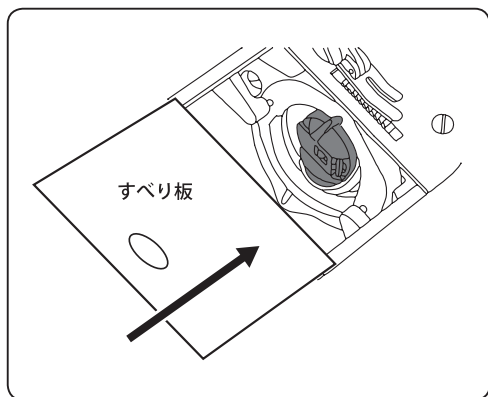
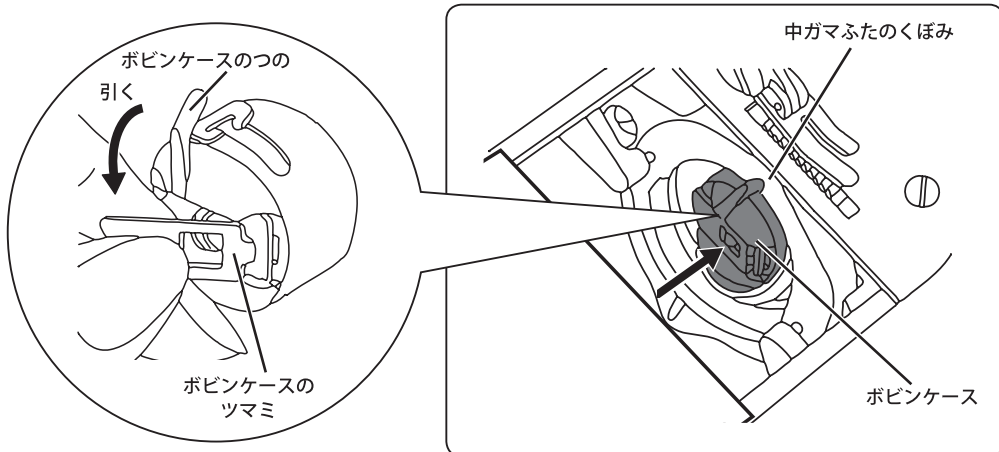


13. 糸の端を持ち、『糸通しミツ』に入れます。



14. 『ボビン』が回転しないように、押えながら糸を左に引き、『糸口』まで糸を引きます。

## ●ボビンケースをカマにセットする



15. 『ボビンケースのツマミ』を持ちます。
16. 『ボビンケースのつの』を『中ガマふたのくぼみ』に入るように合わせ、奥までさし込みます。
- ※ 『ボビンケース』が回転しない位置までしっかりさし込みます。
17. 『すべり板』を閉じます。

# 上糸のかけかた

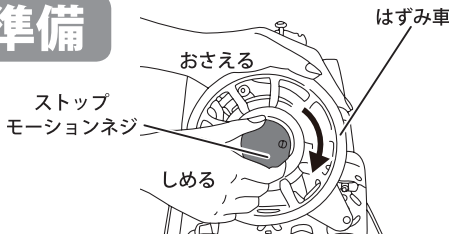


●電源プラグを  
コンセントから抜く。  
突然動くとケガをする恐れがあります。

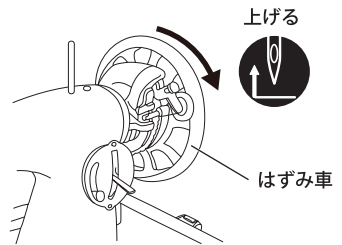


●針先や天びんに注意する。  
ケガをする恐れがあります。

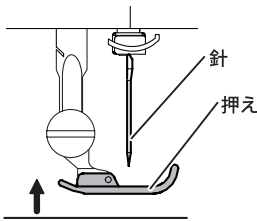
## 準備



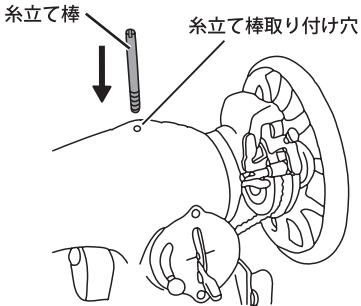
1.『ストップモーションネジ』をしめます。



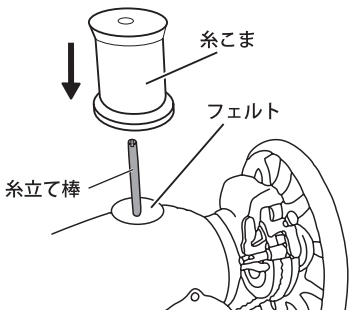
2.『はずみ車』を手前に回し針を一番上にします。



3.『押え』を上げます。

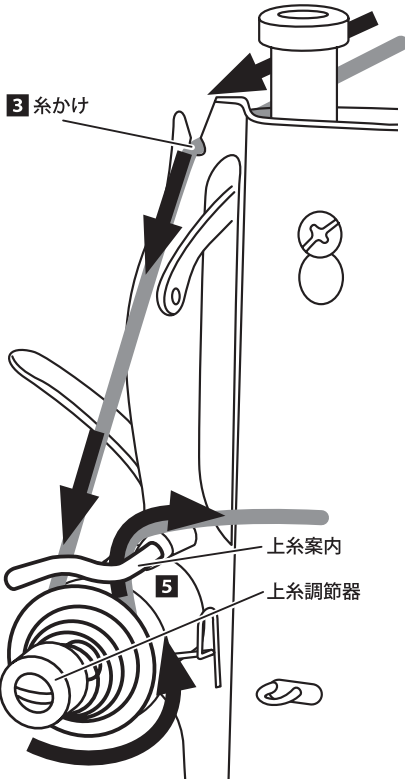
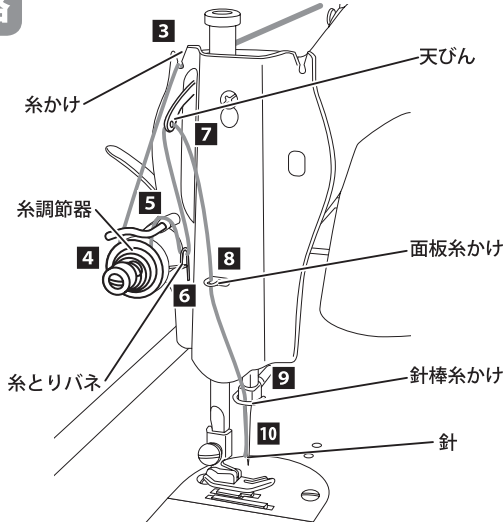


1. 付属の『ドライバー』を使用し『糸立て棒取り付け穴』に『糸立て棒』をねじ込みます。



2.『糸立て棒』に『フェルト』をさし、『糸こま』を『糸立て棒』にさします。

# 順路

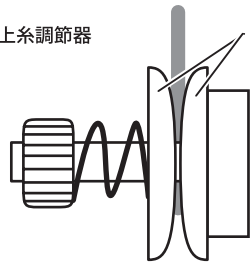


3. 『糸かけ』 に糸をかけます。

4. 『上糸調節器』 に糸をかけます。

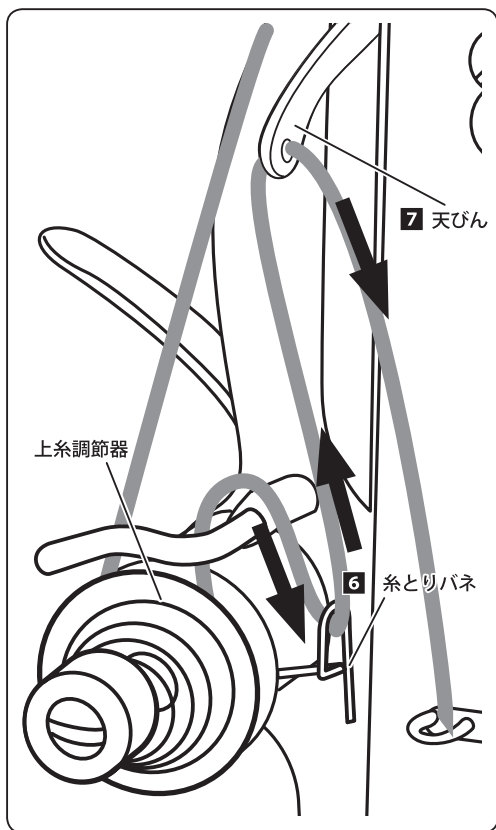
※押え上げレバーが上がっていることをご確認ください。

上糸調節器 上糸調節器皿



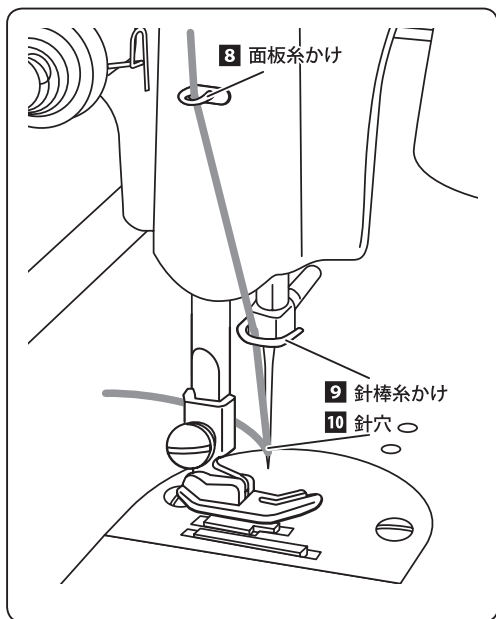
上糸調節器皿の間に糸をかける

5. 『上糸案内』 に糸をかけます。



6. 『糸とりバネ』 に糸をかけます。

7. 『天びん』 に糸を後ろからかけます。



8. 『面板糸かけ』 に糸を上から通します。

9. 『針棒糸かけ』 に糸を上から通します。

10. 『針穴』 に糸を左から右へ通します。

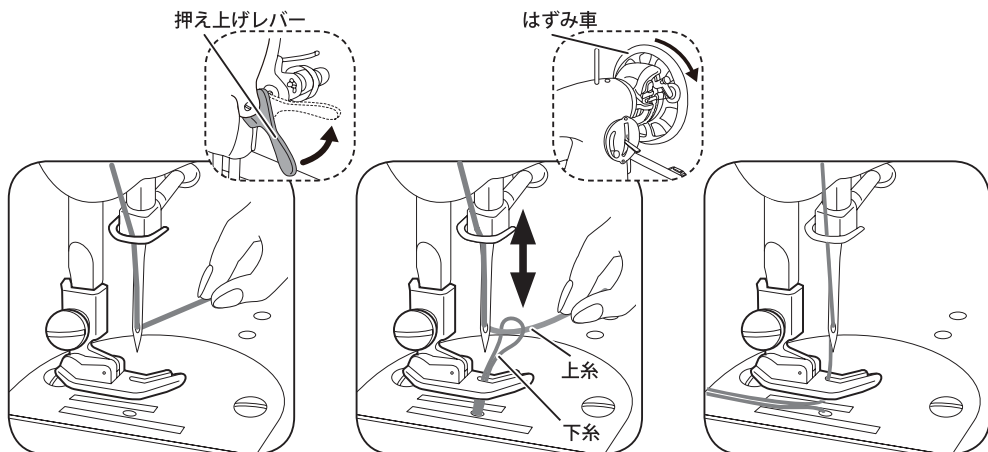
# 下糸の引き上げかた



●電源プラグをコンセントから抜く。  
突然動くとかガをする恐れがあります。



●針先や天びんに注意する。  
ケガをする恐れがあります。



1. 『押え上げレバー』を上げ、上糸の端を持ちます。
2. 『はずみ車』を手前に回し、針を上げて下糸を引き上げます。
3. 引き上げた下糸と上糸をそろえ、『押え』の下から10cmほど引き出します。

## 針、糸、生地の関係

\* 下記の表はあくまで参考です。必ず試し縫いを行い、縫い目をご確認ください。

	生地の種類	針の種類・番号	糸の種類・番号
普通地	一般服地、ブロード、ソフトデニム、サテン、バイル、ギンガムなど	11、14番	綿 60～90 絹 50～90 化繊糸 60～90
薄地	一般裏地、ローン、ジョーゼット、レース、キュブラなど	9、11番	綿 60～100 絹 50～90 化繊糸 60～90
厚地	キルティング、フリース、ツイード、デニム、フェルトなど	14、16番	綿 40～50 絹 50 化繊糸 40～60
伸縮地	ニット、トリコット、スパンテックス、ジャージなど	ニット用針 11、14番	綿 40～50 化繊糸 40～60 ニット用糸 50～90

・針は数字が大きくなるほど太くなります。

・糸は数字が大きくなるほど細くなります。

きれいに縫うためには、生地にあった針と糸をご使用ください。（前ページの表を参照）

糸はミシン糸をご使用ください。手縫い糸は使えません。

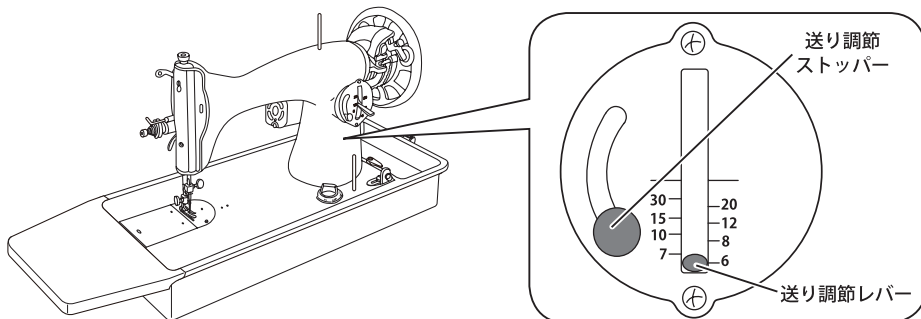
上糸と下糸は同じ種類・同じ太さの糸をご使用ください。

針は家庭用ミシン針（HA×1）、糸は家庭用ミシン糸とご指定の上お買い求めください。

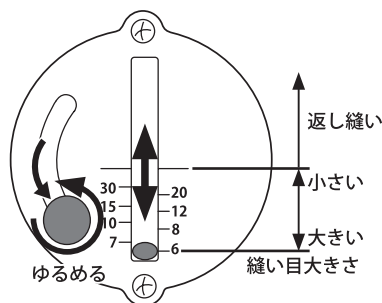
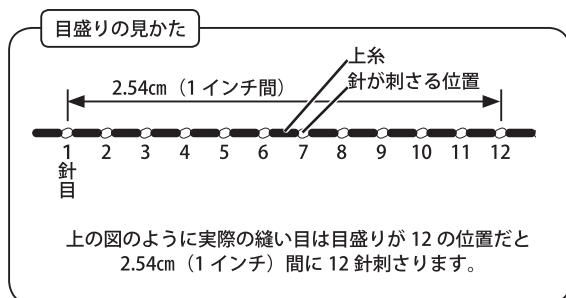
（工場出荷時、ミシンには14番の針が装備されています）

（針の取りかえかたはP28～P29をご参照ください）

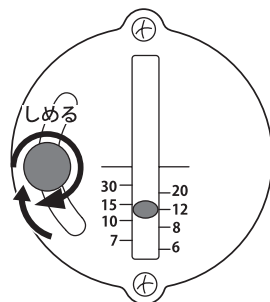
## 送りの調節



1. 『送り調節ストッパー』をゆるめ、下げます。
2. 『送り調節レバー』を上下させ、お好みの縫い目に合わせます。



3. 『送り調節ストッパー』をしめ、『送り調節レバー』で固定します。
4. 縫い目長さを変更するときは『送り調節ストッパー』をゆるめて『送り調節レバー』で調節します。



# 送り歯ドロップ装置



**注意**



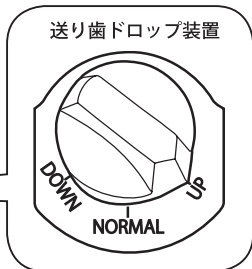
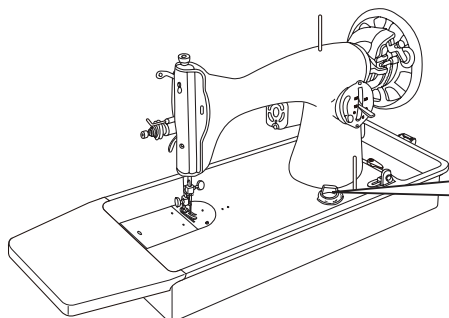
●針先や天びんに注意する。

ケガをする恐れがあります。

※シルク・サテン布など薄い布は『送り歯ドロップ装置』を切り替えることで縫い縮みや縫い詰まりが解消できます。

※デニムのような厚布や段差で布が進みにくいときに効果があります。

## 一般的な布・厚い布を縫うとき



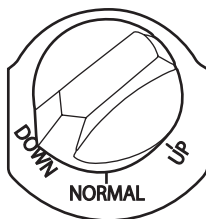
通常は「UP (アップ)」の位置にします。

## 薄い布を縫うとき



薄い布では「NORMAL (ノーマル)」の位置にします。

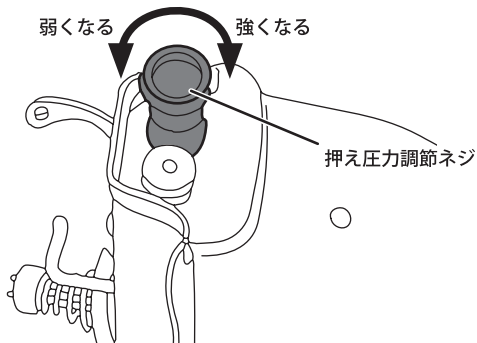
## 刺しゅうを縫うとき



押えをはずし、刺しゅうをするときは「DOWN (ダウン)」にします。

※「DOWN (ダウン)」では送り歯が完全に下がり、布を送らなくなります。

# 押え圧力調節ネジ



布の種類や厚さによって『押え圧力調節ネジ』を回して調節します。

- ・厚い布：右へ回します。
- ・薄い布：左へ回します。

※工場出荷時に最適な押え圧力に調整しています。



# 直線縫い

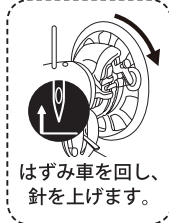
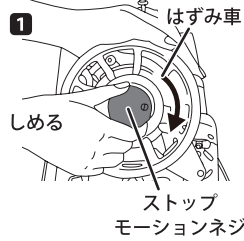
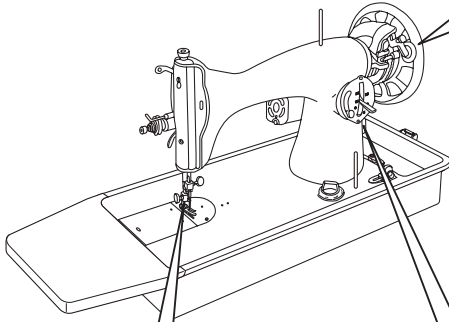


**注意**

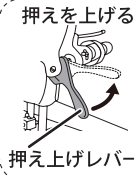
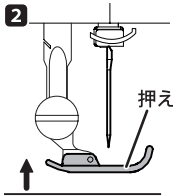


●針先や天びんに注意する。  
ケガをする恐れがあります。

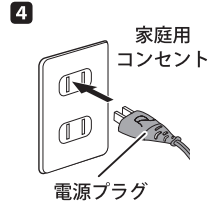
## 準備



1. はずみ車を押さえ、ストップモーションネジを固く締めます。



2. 押えを上げます。

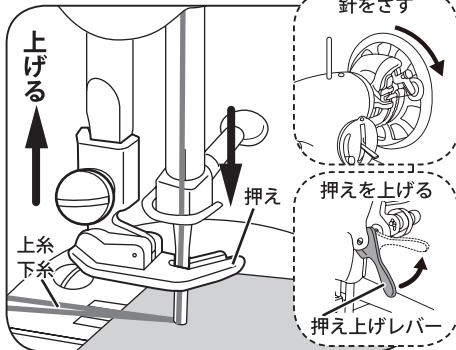


3. フットコントローラージャックをレセプターに接続します。

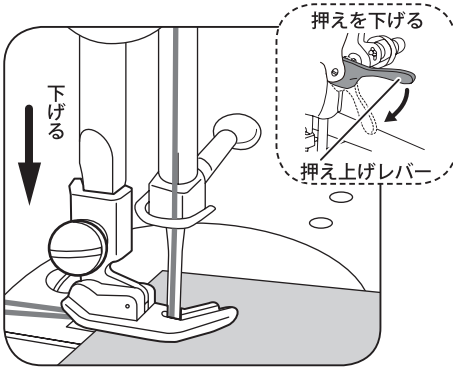
4. 電源プラグをコンセントに接続します。



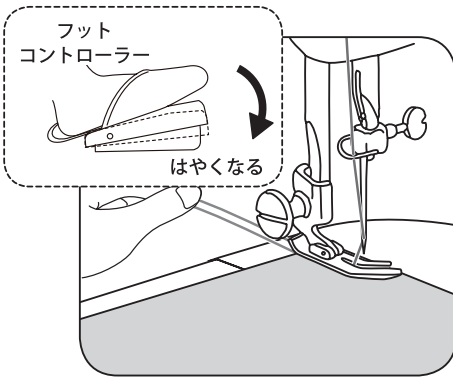
1. 『送り調節レバー』を上下に動かし、お好みの縫い目の大きさにして『送り調節ストッパー』を上げ、固定します。  
(P22 をご覧ください)



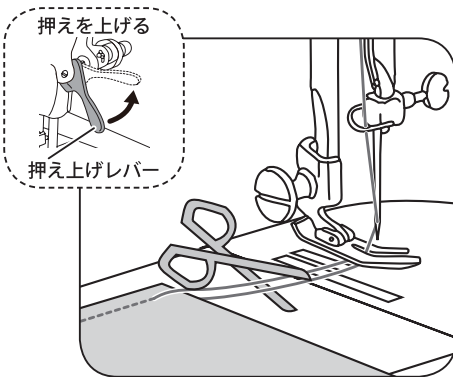
2. 押えを上げ、『はずみ車』を手前に回して縫い始める位置に針を刺します。



3. 上糸と下糸をそろえて押えの下に入れ、後ろに伸ばします。
4. 『押え上げレバー』を下げ、『押え』を下げます。



5. 少しずつ『フットコントローラー』を踏み込み縫い進めます。



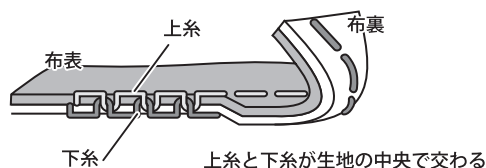
6. 『押え上げレバー』を上げ、布を引き出します。
7. 糸を切ります。

# 糸調子の合わせかた

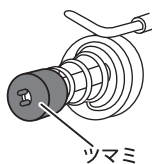
糸調子が合っていないときは、『上糸調節器』のつまみで調節してください。

※『上糸調節器』は回しすぎるとつまみがはずれてしまいます。ご注意ください。

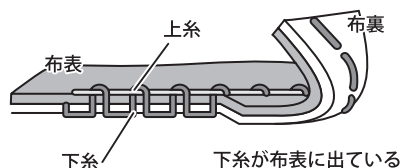
## ●正しい糸調子



<上糸調節器>



## ●上糸が強いとき

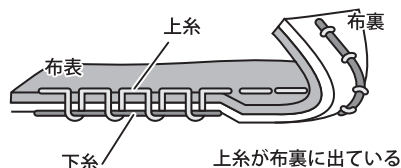


<つまみを<sup>3 3 3 3</sup>反時計回りに回す>

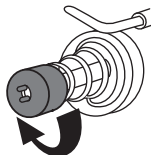


上糸を弱くします。

## ●上糸が弱いとき



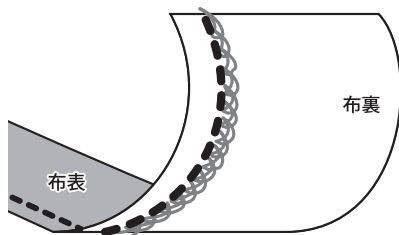
<つまみを<sup>3 3 3 3</sup>時計回りに回す>



上糸を強くします。

## ●生地の裏面がタオルのようになるときは……

- ・ 上糸調子が弱すぎる
- ・ 『押え』が上がったままになっている
- ・ 上糸のかけ方がまちがっている
- ・ 『天びん』から糸がはずれている
- ・ 糸が太すぎる (糸の太さは# 40 まで)
- ・ 針が曲がっている
- ・ 針先がつぶれている



## ポイント!

- ・ 糸が絡んだり、切れてしまうときはミシンにかけている糸をすべてはずし、もう一度はじめから糸をかけ直してください。
- ・ 糸のかけ方は P16 ~ 20 をご覧ください。

# 返し縫い



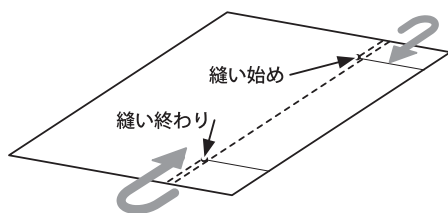
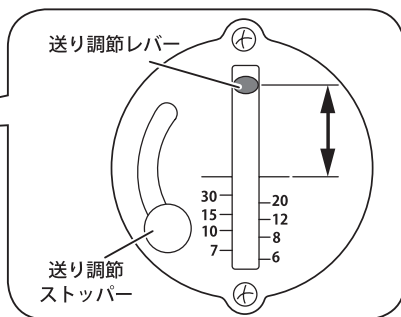
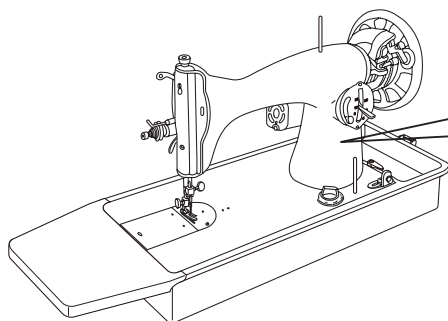
**注意**



●針、天びんに注意する。  
突然動くとケガをする恐れがあります。



●針を布に刺したまま返し縫い  
レバーを下げない  
ケガをする恐れがあります。



ミシンが動いている間に『送り調節レバー』を中央より上へ上げると返し縫いになります。

縫い始めと縫い終わりに返し縫いをするるとほつれ止めになります。

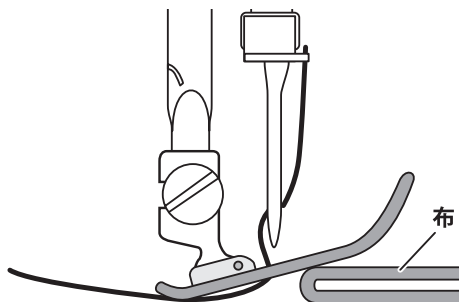
※ 布端ギリギリで返し縫いをすると布が食い込んでしまうことがあります。糸を引きながら縫い始めると防ぐことができます。

# 厚布・段差を縫う

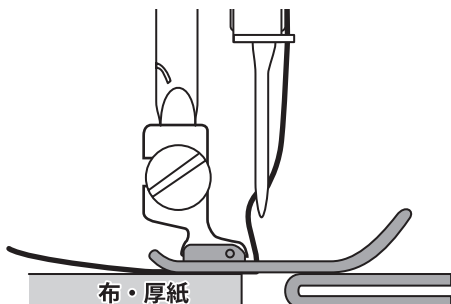
厚布を布端から縫い始めると『押え』が傾き、布が進まなくなることがあります。右図のように『押え』の下に同じ厚さの布や厚紙を置き、傾きをなくすとスムーズに縫い進められます。

<押え側面図>

『押え』が進まなくなる



スムーズに進む



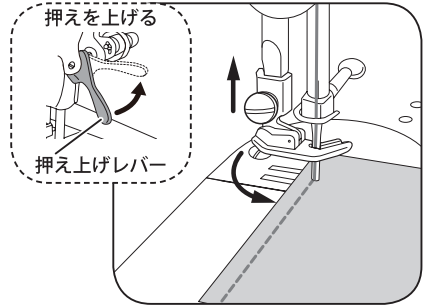
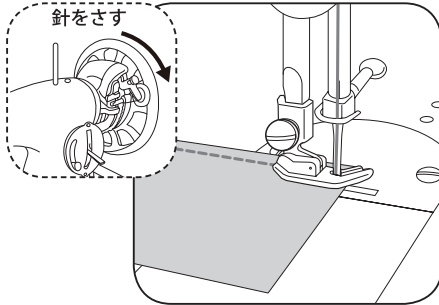
# 縫い方向を変える



**注意**



●針先や天びん、ハズミ車に注意する。  
ケガをする恐れがあります。



1. 布の角少し手前でミシンを止め、『はずみ車』を回しながら角まで縫い進め、針を一番下で止めます。
2. 『押え』を上げ、針を中心にして布を回して布の向きを変えます。
3. 『押え』を下げ、縫い進めます。

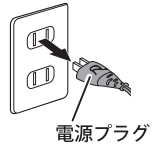
# 針の取りかえかた



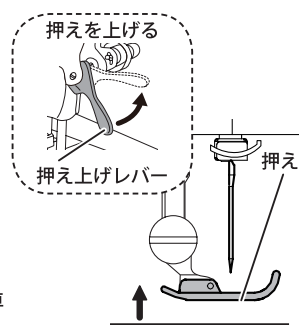
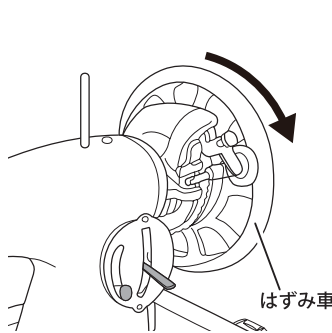
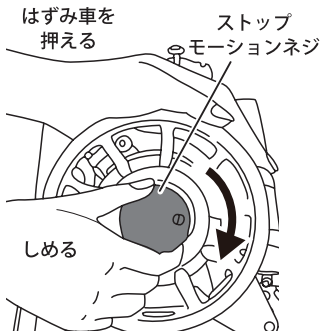
**注意**



- 電源プラグをコンセントから抜く。  
突然動くとケガをする恐れがあります。
- 針先や天びんに注意する。  
ケガをする恐れがあります。
- 針の向きを間違えない。  
針が折れ、ケガをする恐れがあります。また、縫えません。
- 針はしっかり固定する。  
ケガをする恐れがあります。
- 部品や工具を使った後は片づける。  
保管には十分ご注意ください。



電源プラグ



1. 『ストップモーションネジ』をしめます。
2. 『はずみ車』を手前に回し、針を一番上まで上げます。
3. 押えを上げます。

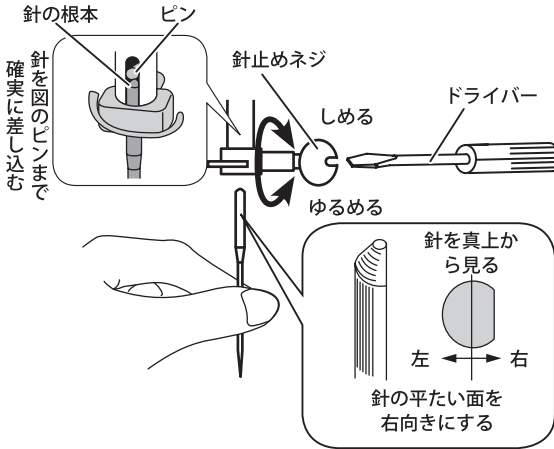


# 注意



●必ず付属の『ドライバー』を使用します。

使用中に針が抜け、故障の原因になります。



#### 4. はずす：

取り付けられている針を持ち、『針止めネジ』をゆるめて針を下に引き抜きます。

#### 5. つける：

平らな面を右側に持ち、針の上端を『ピン』に当たるまでさし込みます。

#### 6. 『針止めネジ』をドライバーでしめ、固定します。

## 正しい針の選びかた

- 曲がった針は使わないでください。
- 家庭用ミシン針 (HA × 1) をご使用ください。
- 目とび、糸がらみがするときはミシンの針が曲がったり、つぶれていることがあります。
- 不良の針を使い続けると、きれいに縫えなくなり、針板やカマに傷をつけます。



※ガラスのような平らな面に置き、針の曲がりを確認してください。

# お手入れ

## ●油をさす



●付属品などの小さな部品は口に入れないでください。  
窒息をする恐れがあります。  
誤って油を飲んでしまったときは、医師に『鉱物油』であることを  
告げて治療をお受け下さい。



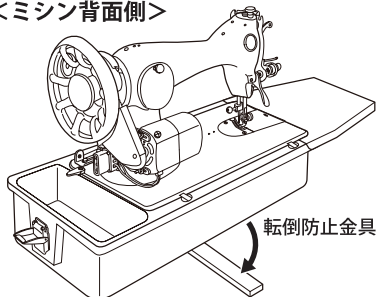
●電源プラグをコンセントから抜く。  
突然動く危険です。ケガをする恐れがあります。



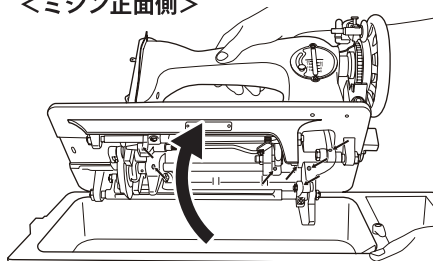
●針先に注意する。  
ケガをする恐れがあります。  
●部品や工具などを放置しない。  
ケガをする恐れがあります。保管には十分注意してください。

※注意 ミシンの底部に油をさすときは、図のように倒して注油します。  
ミシンが倒れたり閉じてケガすることを避けるため、7~8ページの転倒防止金具を  
必ず、引き出して注油してください。

<ミシン背面側>

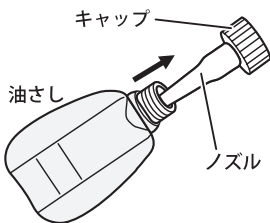


<ミシン正面側>

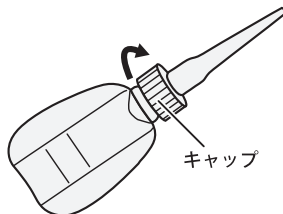


## ●油さしの使い方

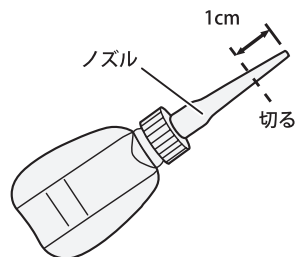
ミシンへの注油は実質使用時間合計が5時間程度で指定個所に行ってください。  
注油量は1滴程度です。さしすぎると布や糸に油が汚れてしまいます。  
ミシンへの注油にミシン油以外の油を使わないでください。



1. 中の油がこぼれないように『キャップ』を開けて『ノズル』を取り出します。

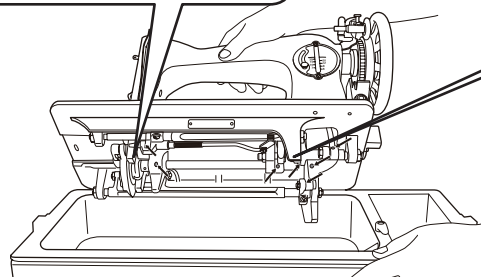
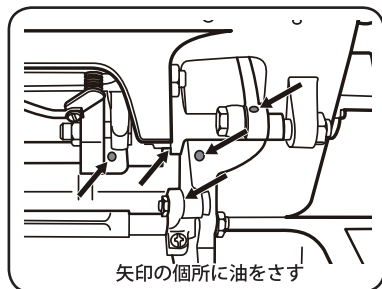
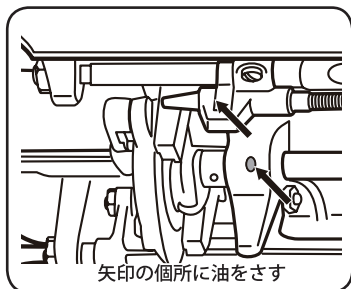
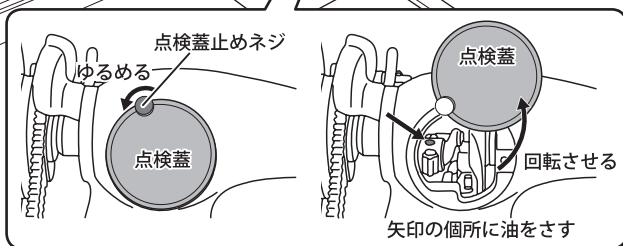
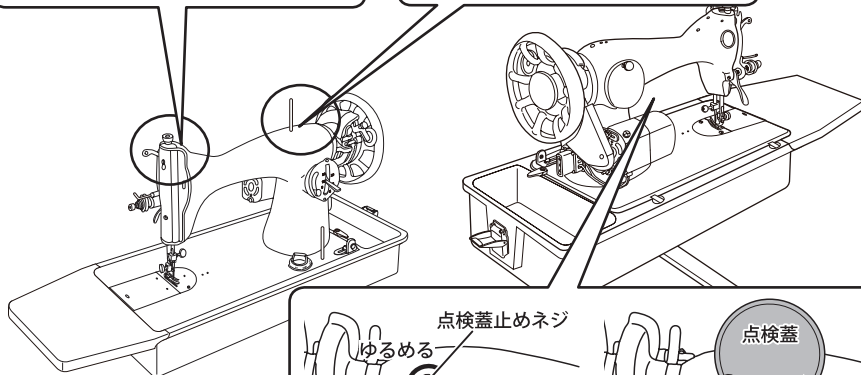
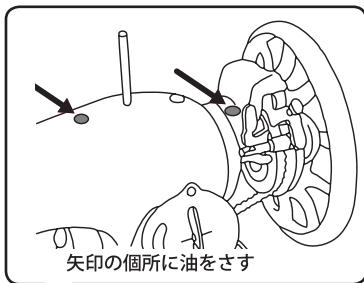
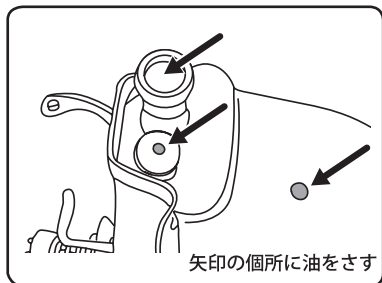


2. 『ノズル』を入れ替えて『キャップ』を締めます。



3. 『ノズル』の先から1cmで切ります。







## ●油をさす場所



ミシンの底部に油をさすときは見えるようにミシンを倒します。  
 <<注意>>ミシンが背後に倒れたり、もとに位置に戻ることがあります。指はさみなどのケガにご注意ください。

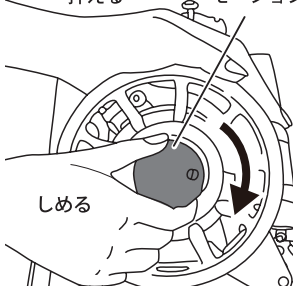


## ●カマのそうじ

 <b>注意</b>	 	<p>●電源プラグをコンセントから抜く。 突然動くと危険です。ケガをする恐れがあります。</p>	 コンセント 電源プラグ
	 	<p>●針先に注意する。 ケガをする恐れがあります。</p> <p>●部品や工具などを放置しない。 ケガをする恐れがあります。保管には十分注意してください。</p>	

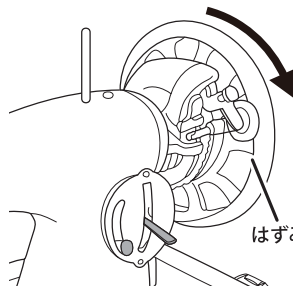
## ●カマの分解

はずみ車を  
押える

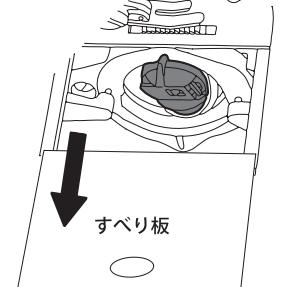


ストップ  
モーションネジ

しめる

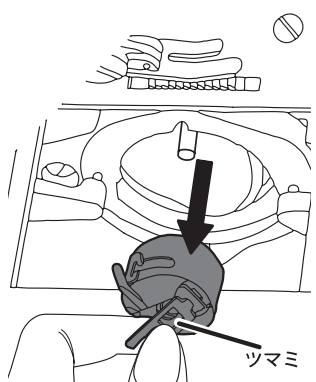


はずみ車

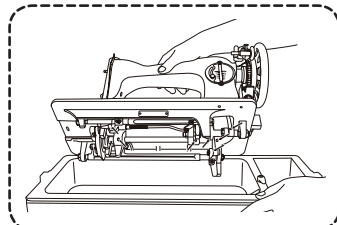


すべり板

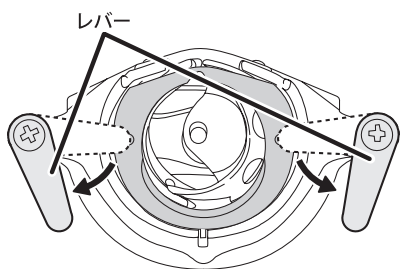
1. 『ストップモーションネジ』をしめます。
2. 『はずみ車』を手前に回し、針を最上位置にします。
3. すべり板を手前にすべらせて開きます。



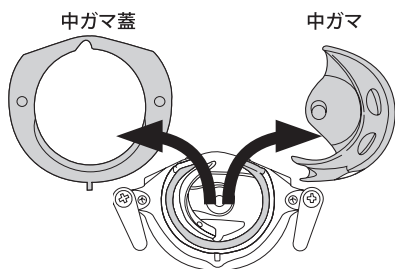
ツマミ



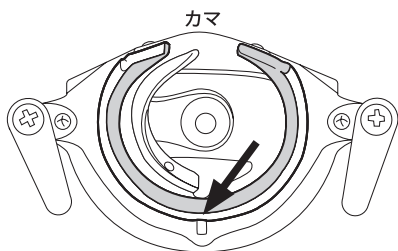
4. 『ボビンケース』のツマミを起こして取り出します。
5. 『カマ』が見えるようにミシンを倒します。  
 <注意>ミシンが背後に倒れたり、もとに位置に戻ることがあります。指はさみなどのケガにご注意ください。



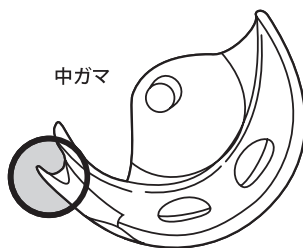
6. 左右の『中ガマ蓋押え』レバーを開きます。



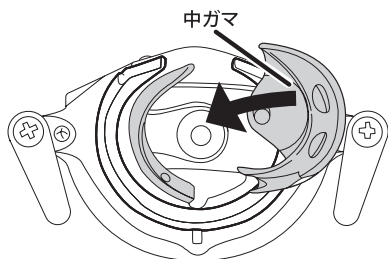
7. 『中ガマ蓋』と『中ガマ』を取り出します。



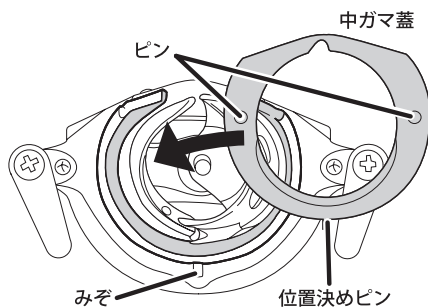
8. 『カマ』の周りの糸くずやほこりを取り除き、  
図の矢印部分にミシン油を1滴落とします。  
(油を差しすぎないように)



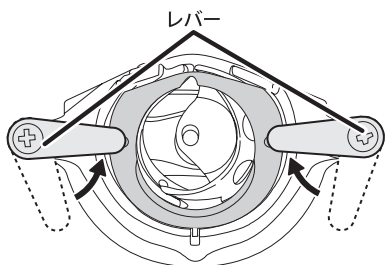
9. 『中ガマ』に傷があるときは紙やすり  
#400~1000 で磨きます。






10. 本体に『中ガマ』を取り付けます。

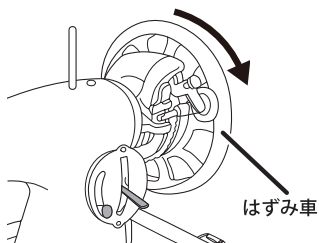


11. 『中ガマ蓋』を『位置決めピン』と  
本体『カマみぞ』に合わせます。



12. 左右の『中ガマ蓋押え』レバーを  
『中ガマ蓋』のピンの上に確実に載せて  
固定します。

 <b>注意</b>		<p>● 中ガマ蓋のピン上に中ガマ蓋押えを載せてください。</p>
		<p>使用中に部品がはずれて危険です。ケガをする恐れがあります。</p>



13. 『はずみ車』を手前に回し、カマが軽くスムーズに動作することを確認します。

●すべり板がはずれてしまったときは・・・



1. 『すべり板』の裏バネを少し広げながら、片側を本体に挟みます。
2. 『すべり板』を斜めに回しながらもう片方の裏バネを広げ、差し込みます。
3. 『すべり板』の溝に『すべり板』の向きをそろえます。

## 困ったときは・・・

不具合	原因	処理	ページ
上糸が切れる	上糸、下糸のかけかたが間違っている。	上糸、下糸を正しくかけ直す。	P16~20
	上糸の糸調子が強すぎる。	上糸の糸調子を適正な強さまで弱める。	P26
	ボビンケースやカマに糸くずが絡んでいる。	ボビンケースやカマの糸くずを取り除く。	P32~34
	針が曲がっている。針先が欠けている。	新しい針に交換する。	P28~29
	糸に結び目やコブがある。	結び目やコブの部分を取り除く。	-
	針や糸が生地に合っていない。	生地に合った針と糸を使用する。	P21,22
	針の取り付けかたが間違っている。	正しく針を取り付ける。	P28~29
	種類の異なったボビンを使用している。	種類の合ったボビンを使用する。	P8
	糸が劣化している。	新しい糸に交換する。	P16~20
下糸が切れる	下糸のかけかたが間違っている。	下糸を正しくかけ直す。	P13~17
	ボビンケースやカマに糸くずが絡んでいる。	ボビンケースやカマの糸くずを取り除く。	P32~34
	糸が劣化している。	新しい糸に交換する。	P16~20
縫い目ととぶ	針の取り付けかたが間違っている。	正しく針を取り付ける。	P28,29
	針が曲がっている。針先が欠けている。	新しい針に交換する。	P28,29
	針や糸が生地に合っていない。	生地に合った針と糸を使用する。	P21~22
	上糸のかけかたが間違っている。	上糸を正しくかけ直す。	P18~20

不具合	原因	処理	ページ
布がシワになる	上糸の糸調子が強すぎる。	上糸の糸調子を適正な強さまで弱める。	P26
	上糸、下糸のかけかたが間違っている。	上糸、下糸を正しくかけ直す。	P16~20
	針や糸が生地に合っていない。	生地に合った針と糸を使用する。	P29

## 仕様

型式：HA シリーズ	サイズ： L:510mm×H:310mm×D:220mm カバーサイズ： L:510mm×H:360mm×D:220mm テーブル使用時サイズ： L:655mm×H:310mm×D:220mm	重量：13kg	定格電圧：AC100V
定格周波数：50/60Hz	定格消費電力：90W	コマタイプ：垂直半回転ガマ	
ボビン：鉄ボビン（高さ：11.5×直径：20.5mm）		使用針：家庭用ミシン針（HA×1）	
フットコントローラー 型式：4C-315A 定格：AC100V 1.5A			

## 修理サービス要領

### ●修理サービスのご相談

- このミシンのご購入者には、ご購入店から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。
- 修理サービスについてお問い合わせやご不審のある場合は、ご購入店または、お客様相談係へお申しつけください。

### ●修理用品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常8年間は必要に応じて当社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

### ●無料修理保証期間後の修理サービス

- 取扱説明書に基づいて、正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスをいたします。ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店にご相談ください。
  - 保存上の不備または、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
  - 浸水、冠水、火災等、天災、地震により不調、故障または損傷したとき。
  - ご購入後の移動または輸送によって不調、故障、損傷したとき。
  - ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によって元どおりに修復できないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。

# サービス工場・ご相談先

マシンについてのご相談は、ご購入店または下記の弊社でも承っておりますのでご遠慮なくお申し越しください。また、ご購入いただきましたマシンの点検修理なども致します。なお、点検修理の際は有償修理点検と無償修理点検がありますので、詳しくは下記へお問い合わせくださいませ。

※ マシンを工場へ送付されるときは、このマシンの箱と緩衝材（クッション）をご利用ください。

## お客様相談係

### 株式会社 アックスヤマザキ ミシンサービス係

月～金曜日 午前 9:00 ～ 12:00 午後 1:00 ～ 5:00 (土曜 / 日曜 / 祭日休み)

〒 544-0022 大阪府大阪市生野区舎利寺 3-12-5

TEL. 06-6717-5851 FAX. 06-6741-7875





# 保証書

型式	HA シリーズ	機械番号	
※お買い上げ日	___年___月___日	保証期間	お買い上げ日より 1年（頭部）
※お客様	〒 _____ TEL _____		
	ご住所		
	ご氏名	様	
※販売店	住所 店名		

## 無料修理保証について

1. 無料修理保証期間（ご購入の日から1ヵ年間）内に故障が発生した場合は、無料で故障箇所の修理調整、または故障部品の交換を行います。
2. 無料修理保証は表記ミシン頭部のみとし、ケース、針及び電球、消耗部品を除きます。
3. 無料修理保証をお受けいただくときは、この保証書を提示してください。

## 無料修理保証が受けられない場合

次のような場合は、保証期間内であっても保証しかねますのでご注意ください。

1. 「取扱説明書」に記載ある使用方法または、保管方法と異なる方法による不調・故障または損傷したとき。
2. 浸水・冠水・火災・天災地変による不調故障または損傷したとき。
3. ご購入店または当社で指定した販売店・サービス店以外で修理分解または改造したための不調・故障または損傷したとき。
4. 職業用等過度のご使用による不調・故障または損傷したとき。
5. 特別なご依頼による点検・精密検査または分解掃除等をしたとき。
6. この保証書のご提示がなかったとき。
7. この保証書に購入年月日・ご購入店名の記載または捺印がなかったとき。
8. この保証書の字句の訂正または書き換えがあったとき。
9. この保証書は日本国内に限り有効といたします。 This warranty is valid only in Japan.

## 有償修理について

前項（無料修理保証が受けられない場合）の1.～10.に該当する場合または有料で修理するときの費用は、別に定める必要部品代金および技術料金の合計金額とします。

## お問い合わせ・ご相談先

この保証書に記載してあるご購入店または取扱説明書に記載された「サービス工場・ご相談先」へお申し出ください。

## お客様へのお願い

1. この保証書は本書によって明示した期間・条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によりお客様の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理についてご不明な場合は、ご購入店または当社の「サービス工場・ご相談先」へお問い合わせください。
2. 「取扱説明書」の「修理サービス要領」をよくお読みください。
3. この保証書は紛失されても再発行いたしません。大切に保管してください。



【保証責任者】株式会社 アックス ヤマザキ

〒 544-0022 大阪府大阪市生野区舍利寺 3 丁目 1 2 - 5  
TEL. 06-6717-5851